

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集
地域はいま、グローバル
(2013年春、グローバル地域文化学部誕生)

●同志社人訪問

ウォルト・ディズニージャパン株式会社
コンシューマー・プロダクツゼネラルマネージャー

中澤一雄さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。



特集

地域はいま、グローバル ～2013年春、グローバル地域文化学部誕生～

2

ゼミ探訪 学びの時間

9

政策学部 今川 晃 ゼミ

同志社の研究は今

11

コリア研究センター 太田 修 グローバル・スタディーズ研究科教授

2011年度 大学決算について

13

CAMPUS NEWS

15

イスタンブール事務所開所式の開催／国際会議「アフガニスタンの和解と平和構築」開催／「リエゾンオフィス・知的財産センター開設10周年記念フォーラム」を開催／同志社大学用地の一部貸与について／オープンキャンパス2012開催／ロンドンオリンピック／本学留学生が祇園祭に参加／法学研究科ダブル・ディグリープログラム第2弾！／新任教員紹介／2012年度 卒業式・学位授与式／2013年度入学式／本学教員執筆図書紹介／新島旧邸 特別公開 開館日・見学方法の変更について

留学生紹介

19

奥村 アガーテさん(日本語・日本文化教育センターに在学)

INTERVIEW ～同志社人訪問～

20

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
コンシューマ・プロダクツ ゼネラルマネージャー 中澤 一雄さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～

23

・大川 倫央さん(2000年 経済学部卒業)
・今田 亜衣さん(2006年 神学部卒業)

ANNOUNCEMENT

25

MY PURPOSE

27

ニューヨークで認められた独自のダンススタイル～プロのダンサーとして元気を与えられる存在に～
中西 浄華さん(文学部英文学科4年次生)

表紙の情景 [同志社国際学院 抱志館]



同志社大学付属として、2011年4月に京都府木津川市に開校した同志社国際学院。文部科学省より教育課程特例校と認定された日英バイリンガル教育(6年間の授業の約55%を英語で実施)が特徴の6年制の初等部と、世界的に高く評価されている国際的なカリキュラムを採用し、すべての授業を英語で行う12年制の国際部の2つの学校からなる。

この2校が同居する「Two Schools One World」をコンセプトとした建物・施設やカリキュラムにより、児童・教員・保護者間で学び合いが起こるLearning Community(学びの共同体)を形成。児童・生徒たちは「小さな国際社会」と呼ぶことのできる環境の中で、多文化理解や世界に通じる思いやりの心を育てている。

特集

地域はいま、グローバル

～2013年春、グローバル地域文化学部誕生～

「国際主義」を教育理念の1つとする同志社大学は、

140年近くにおよぶ歴史の中で、

様々な形で世界の多様な社会と密接に関わり、

グローバルに活躍できる人材を育成し世に送り出してきた。

その伝統と実績を礎に、2013年4月、

同志社大学の国際化をさらに推進する新たな学部が誕生する。

今秋開校する烏丸キャンパスの「志高館」に開設される

14番目の学部「グローバル地域文化学部」だ。

新時代の国際主義教育の一翼を担う新学部の特色と学びを展望する。

なぜ今、グローバル地域文化学なのか

グローバル30への採択を一つの契機にした同志社大学の新たな国際化のうねりの中で、グローバル地域文化学部の誕生は、どのような意味を持つのか。副学長でグローバル地域文化学部設置準備室長の龍城正明教授に新学部誕生の背景と、その概要、社会的に果たす役割について聞いた。

グローバル・トライアングルの誕生

同志社大学の教育理念の一つである国際主義の延長線上にあるのが、グローバル主義だと私は捉えています。グローバルというのは「地球規模」を表す言葉ですから、国や国境という概念はありません。私たちの地球を「Oneness」つまり1つのものとして見ていくことからグローバル化は始まると考えています。

本学では、2010年に「グローバル・スタディーズ研究科」が独立研究科として発足。2011年には「グローバル・コミュニケーション・シオン学部」が誕生しました。そして「グローバル地域文化学部」の開設によって、グローバルトライアングルが生まれます。

この3つの名称「Global Studies of the “S”」、Global Communications of the “Co”」、Global and Regional Studies of the “Re”を合わせると“Score”という言葉ができています。“Score”とはすべてのパートが書かれた楽譜のこと。同志社のグローバル化という壮大な交響楽を、この3つの研究科と学部で奏でていくのです。



目的はグローバルに通用する能力を持った人物の育成

グローバル地域文化学部の大きな特色は、地域をグローバルな観点から見るためのツールとして「言語を選択する」という点にあります。言語は、12の外国語の中から最低でも2つを学びます。英語を第1言語として他の外国語を学ぶ、あるいは英語を第2言語として他の外国語を第1言語とすることもできます。つまり、2カ国語以上の言語運用能力を習得できるというわけです。こうして語学を身につけた上で、グローバルに通用するために地域に対する歴史的、文化的な知識、さらにはグローバル・イシュー（環境問題、差別問題、紛争問題など）についての知識を習得していきます。世界で何が起きているのかを「私たちの地球＝Oneness」という観点から見て、何に注目し、何を学び取っていくのか、幅広い意味での「グローバル・コンペタンス（能力）」を持った人材を育てていくことが、私たちの一番大きな目的です。

グローバルな視点で自国や地域の文化を知ることが重要

極東の小さな島国で暮らしている私たちは、もっと広く世界を見なくてはいいけません。これは、新島襄の「進取の気性



龍城 正明
副学長・グローバル地域文化学部
設置準備室 室長

と話して自分の意見を言い、相手の反応を受けて考えることが必要です。そのため、海外での経験を重要視し、一度は海外での研修に参加することを必修としています。

日本の真のグローバル化を実践していく学部

グローバル地域文化学部の卒業生が活躍する場所はたくさんあります。環境、地域紛争、人種問題を解決する仕事は、日本の中だけではできない仕事です。グローバル・イシューを理解し、JICA、国連などでも活躍できる人材や、日本企業はもとより、世界で活躍できる人材を育てることは、同志社大学の夢でもあります。

グローバル地域文化学部は、新島襄の進取の気性や、常に新しいことに挑戦するという心構えを持ち、日本という小さな枠にとどまらず、グローバルに地球を見ていく学部です。日本のグローバル化については、これまでよく言われてきたことですが、いまだ「実践」されていないと感じています。新学部は、それを実践していく学部として発足します。

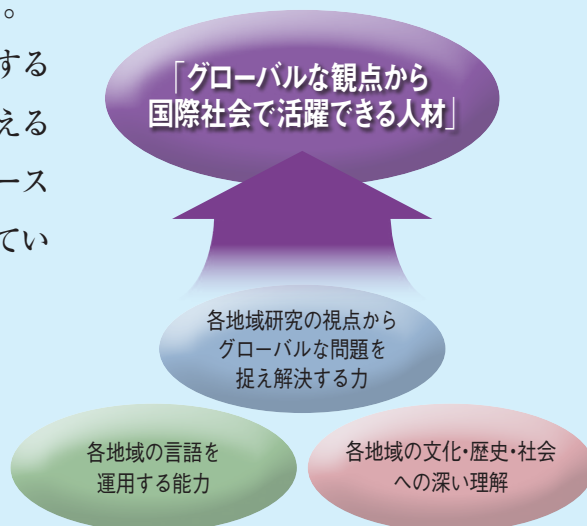
私たちの使命はグローバルな観点から現代社会が抱える諸問題を捉え、きちんと理解できる真のグローバル人材を育てていくことです。学部の教員全員がこの気持ちを持ち、新入生の入学を心からお待ちしています。



グローバル地域文化学部

グローバルな問題の多くは、文化や人種、経済環境が異なることによる摩擦など、地域間の問題に起因している。そこで、グローバルな問題を的確に捉えるためには、地域の文化や課題に対する深い理解が不可欠となる。

「グローバル地域文化学」とは、地域の文化・歴史・社会に関する学際的な知識を基礎に、グローバルな視点から現代世界が抱える諸問題を研究する学問。グローバル地域文化学部には3つのコースがあり、学生はいずれかのコースに属して、各地域で使用されている言語を駆使しつつ、自ら問題を見定め、解決する方法を考えていく。4年間の学びや研究を通して、グローバルな観点から国際社会で活躍できる能力を身につけることが、この学部のねらいだ。



コース紹介



グローバルな観点からヨーロッパを理解するコース。そのため、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を駆使して、その地域固有の歴史・文化・社会を詳しく学びつつ、同時にヨーロッパが世界とどのような関係の中に位置しているのかを考えていく。ヨーロッパを理解するためには、歴史、文化、現代の諸問題を、協調、対立、摩擦、調和といった様々な関係の中から把握することが重要。学生は、イギリス、ドイツ、フランス、ロシアの4つの中から主な地域をひとつ選択し、その地域についての専門知識を修得。これに並行して、それぞれの地域に大きな影響を与えているグローバルなテーマである「宗教」「移民」「植民地主義」などについて学んでいく。



近年のアジアは、オーストラリアをはじめとする太平洋諸地域と特に経済面での連携を深めつつあり、アジア・太平洋をひとつのエリアとして捉えて学ぶことの重要性も高まりつつある。この地域の国々の宗教や民族は多様で、古くから人々の移動が絶えず行われ、その文化は多様であるとともに常に変化している。本コースでは、中国語、コリア語、英語の高度な言語能力を習得するとともに、個別の国や民族の歴史だけでなく、文化衝突、歴史理解、民族移動、環境資源、ジェンダーなどについて最新の知見を学び、グローバル化の中で、いかなる課題を抱えるようになったのかを学び、海外研修や留学を通して実践的な能力を高めていく。



本コースでは、アメリカを南北アメリカ大陸およびその周辺地域を意味する「アメリカス(The Americas)」と考える。アメリカコースでは、専攻地域の歴史・社会・文化を深く理解するための高度な言語能力を鍛えるとともに、アメリカス全体を視野に入れた国際情勢に関する知識を身につけていく。また、地域に関する知識のみならず、人種・民族関係、ジェンダー、国際人口移動などに関する講義を通じて、「アメリカス」の内に含まれる多様性、そしてそれを生み出した世界の他の地域との関係についても考察していく。南北アメリカ地域への語学研修や、バンクーバー、ロサンゼルスなどの現地企業やNPOでの海外インターンシップ・プログラムも用意している。

松久 玲子
「言語文化教育研究センター 教授
(アメリカコース※)」

竹内 理樺
「言語文化教育研究センター 専任講師
(アジア・太平洋コース※)」

清水 穰
「言語文化教育研究センター 教授
(ヨーロッパコース※)」



※2013年4月着任予定

座談会 世界の今を見つめて正しく理解し、 広い視点を持って活躍できる人材を。

グローバル地域文化学部を構成する「ヨーロッパ」「アジア・太平洋」「アメリカ」の3コースでは、具体的に何を学び、どのような人材を育成していくのか。それぞれの担当教員が語った。

グローバルと地域、2つの 視点で見る

清水●アメリカでは1960〜70年代、日本では80年代にエリアスタディが行われるようになりました。それまでの社会学や経済学といった専門分野からのアプローチだけでなく、エリア全体の専門家が必要とされたのです。しかし、90年代後半から宗教や経済問題、環境汚染など、国境を越えた問題があふれてきたため、今度ではグローバルな視点が必要になってきました。世界は今、大きな変動期にあり、地球規模で1つひとつ現実問題を見ていくグローバル地域文化学部は、時代の流れにあった学部だと思います。

松久●そうですね。国際社会全体で取り組まねば解決できない問題は、グローバルな視点から見ることがあります。問題の現れ方は地域によってまったく異なりますから、地域の視点と、グローバルな流れの中で各地域がどう解決していくか、その2つの視点で問題を見極めていくことが重要になります。

竹内●情報を国内だけで見ていると、ど



松久●新学部では、まずは鳥瞰的な視点から世界を見て、少しずつ地域全般の知識を習得し、卒業時には特定の地域のスペシャリストになれるようなカリキュラ

ムにしています。また研究対象地域でのフィールドワークなど、体験的に学ぶことが必修となっています。私は、自分の経験からも学生のうちに海外へ行くことは大きな意義があると思っています。フレキシビリティがあつて、違ったものを受容する力がありますから。

竹内●もしその国にマイナスイメージを抱いていても、足を踏み入れて現状を自分の目で見ることで、なぜそのイメージをもったのだろうと考える力が生まれます。だから、次の一歩に進むことができます。また、日本で当たり前だと思っていることも、当たり前ではないと知ること意義があると思います。

3コースの学びの方向性

清水●3コース、それぞれの説明をしますと、まず、ヨーロッパは世界史が進む方向の1つの標本箱のようなエリアです。

今ヨーロッパを実質的に動かしているのは、イギリス、フランス、ドイツ、ロシアですが、北欧、東欧、スペインやイタリ

グローバル地域文化学部で 学ぶことができる外国語

必ず2つの外国語を履修(英語は必修)。もちろん、意欲に応じてそれ以上の習得も可能です。

英 語	ドイツ語
フランス語	中国語
スペイン語	ロシア語
コリア語	インドネシア語
トルコ語	ポルトガル語
アラビア語	イタリア語

アについても学びます。現時点でのヨーロッパの姿は、日本人がイメージするよりはるかに多様で、やがて日本でも生じると考えられる問題が、今まさに集中的に現れています。ヨーロッパ文化の多様性や複雑性、またダイナミックな流動体としてのヨーロッパの姿をしっかりと伝えたいですね。

竹内 ● アジアはこれからますます発展する地域で、特に中国人の全世界的な動き方は無視できなくなっていますし、インドも人口が多いということはそれだけ多くの可能性を秘めているといえます。東南アジア諸国も底知れないパワーを持っています。アジア・太平洋コースでは、日本を中心とした東アジアを中心に、隣の朝鮮半島、中国、台湾、香港といった地域からアジア全体を見ていきます。歴史認識の問題については、正確な経緯を知った上で、どういったパートナーシップを築いていくのかを新入生の皆さんにはまず考えてほしいですね。

松久 ● アメリカ・アメリカ合衆国と思われがちですが、コース名の英語表記では

竹内 ● 3つのコースに分かれてはいますが、学部内で横断的に勉強することができますのが大きな特徴です。入学時に選んだコースでその地域を深く研究することとできますが、もし途中で他の地域や問題に興味が移ったとしても、「グローバル・イシュー」という複数地域にまたがる



「The Americas」となっている通り、ラテンアメリカ、アメリカ合衆国、カナダなどアメリカ大陸全体を勉強できるカリキュラムにしています。中でもラテンアメリカは興味深い地域です。33カ国あり、公用語もスペイン語、ポルトガル語、オランダ語、フランス語など、非常に多様な地域なのです。北アメリカとラテンアメリカという、一方は先進国で、一方は発展途上国とイメージされますが、なぜ違いが生じてしまったのかなどを歴史的な経緯や現在の問題を分析する中で正確に捉えられるような学習をしていただきたい。

卒業後の活躍の場は広い

課題として捉え、広範な研究をすることも可能です。

松久 ● 一方で、3つのコースに含まれない地域についてですが、例えばアフリカはグローバル・イシュー科目でカバーしていますし、アラブ、中東、シリア、トルコなどについては、ヨーロッパの植民地主義や移民問題と深い関係があるので、ヨーロッパコースで重視していきたいと思っています。

清水 ● 卒業後の進路としては、旧来の縦

割りの学部ではないので、進路は幅広く考えられます。私は、ぜひ社会に出て、日本の将来のために働いていただきたいという気持ちがあります。また、同志社大学のグローバル・スタディーズ研究科や、他大学の大学院への進学も考えられますね。

松久 ● 例えば国連の職員を希望する学生には、4年間でそのための基礎を作っていたきたい。日本企業で働くにしても、海外に派遣されたときに地域の実情を理解して何か行動できる人材を育てられると思います。

竹内 ● 今は、卓越した語学力そのものよりも、地域のバックグラウンドとなっているものの考え方や社会のあり方を理解している人材が求められています。そういう意味でも、有能な学生を社会に送り

出せるのではないのでしょうか。また、今の時代は英語以外の外国語も需要がありますので、活躍の場は広いはずです。



清水 ● ユーロやギリシャ問題で揺れるヨーロッパは今、時局性の高いエリア。もちろん、その影響は日本にも及んでいます。学生には現在のヨーロッパと、いま改めて向き合ってみようと言いたいですね。

竹内 ● 活躍する場が多いのに、アジアについて学びたいという学生が少ないのは残念です。まず、日本がアジアの一員であることを認識し、そこから世界へとグローバルに活躍できる人材を育てていきたいです。

松久 ● 南北アメリカは、とても多様な地域です。歴史的な経過から、どのように紛争や貧困の問題が解決されてきたかなど、様々なことが学べます。同志社大学でラテンアメリカを研究できる場は、この学部が初めて。私たちも期待しています。

グローバル社会に貢献できる人材とは？

グローバル地域文化学部開設記念公開座談会

来春スタートするグローバル地域文化学部開設を記念した公開座談会が8月5日、今出川キャンパス・明德館21番教室で開催された。本学卒業生でフリーアナウンサーの八木早希さんを進行役に、同じく卒業生で認定NPO法人難民支援協会支援事業部部長の川勝健司さん、新学部教授に就任予定のアンヌ・ゴノン グローバル・スタディーズ研究科教授が、「グローバル社会とは何か?」「グローバル人材とは?」「若い世代に求めるもの」をテーマに話し合った。



英語を学ぶ3つの道が完成

公開座談会の開会に先立ち、副学長でグローバル地域文化学部設置準備室長の龍城正明教授が挨拶。グローバル地域文化学部の開設により、同志社英学校を起源とする文学部英文学科、2011年に発足したグローバル・コミュニケーション学部の合わせて3つの学部学科で英語を専門的に勉強できるようになることから、それぞれの学びの特色を説明した。龍城教授は「英語教員を希望している人は英文学科へ、高い英語の実践的な運用能力を身につけたいと望んでいる人はグローバル・コミュニケーション学部へ、地域のことをグローバルな観点で捉え、英語のほかにもう1つの外国語をマスターしようと考えている人はグローバル地域文化学部へきてください」と聴衆へ呼びかけた。

座談会は、出席者それぞれが自己紹介を兼ねてこれまでの経験や現在の仕事の内容などを説明することから始まった。川勝健司さんは、親の仕事の関係で幼少時代に10年ほどメキシコとブラジルで生活し、貧富の差の厳しさを目の当たりにしていたため、貧困問題や紛争問題に関心を持つようになったという。現在は東京・四谷にある難民支援協会に勤務しているが、それまではヨルダン、パキスタンや独立前の南スーダンで難民のための生活環境の整備に携わっていたことなどを、現地での仕事の様子、暮らしていた部屋のスライドを用いながら紹介した。

続いて、スペインで生まれフランスで育つ

たアンヌ・ゴノン教授。ゴノン教授は現在もフランスで発行されたパスポートを持っているものの、日本で研究をするようになって10年以上が経つ。しかし、日本で暮らす時間がどれだけ長くなっても日本人にはなれず、また純粹なフランス人とも言えなくなっている自身のことを「世界の人」と定義する。同志社大学では世界共通の問題である貧困、暴力、紛争、環境、エイズなどについて研究・講義し、「学生と一緒に、なぜその問題が起きたか、政治・経済的な状況と文化的な背景を考察し理解しようとしています」と説明した。

八木早希さんは本学を卒業後、毎日放送にアナウンサーとして入社。放送局では小学校時代に暮らしたところのある韓国へ取材で何度も出かけた経験を述べ、「英語に加えて韓国語ができることはフリーに転向する際も、そしてフリーで活動する今も大きな武器になっている」という。

グローバル社会、グローバル人材とは

本題に入り、「グローバル社会とは」という八木さんの問いかけにまず答えたのはゴノン教授。

「立場によって様々な捉え方があると思いますが、例えば国連のような国際機関が目指しているグローバル社会というのは、紛争の解決のために議論することができる社会のことでしょう。また、川勝さんの南スーダンなどの活動のように、一般の人々が遠いところで起きている問題に興味を持ち、その問題について責任をもって解決しようと活動する社会もグローバル社会と



言えると思います」

一方で川勝さんは、毎日のようにカメルーンやナイジェリアなどから難民がスーツケース1つで東京の事務所にやってくる実状を挙げ、「遠いアフリカから日本まで助けを求めてくるように、国と国の間の距離が非常に縮まっている。人々があちらこちらに様々な事情で移動していく、そういった社会こそグローバル社会なのではないでしょうか」と述べた。

またグローバル人材とはどういう人なのか、という問いには「かつてお世話になったインターンシップ先の上司はニュージーランド人、同僚はスリランカ、オーストラリア、カナダから来ていましたが、共通して言えるのは自分の心に国境線を引かないという姿勢です。外国人だから、外国のことだからと、どこかにラインを引くのではなく、何人であれ困っている状況は同じなのだから、そのために自分でできることがあればやりたいという気持ちを持っている人たちが集まっています」と、川勝さんがコソボにある国際移住機関の事務所勤務した経験を紹

若い世代に求めるのは 知識と批判精神

介。「日本人だからと線を引いて自分の視野を狭くしてしまうのではなく、世界で起こっているどのようなことにも自分のこととして興味を持ち、共感して、主体的に考えることができる人。様々な国籍の人と一緒に何かを作り上げていく意欲のある人が、今後のグローバル社会で活躍していくのだらうと思っています」と話した。

さらに、「若い世代に求めるもの」について、

「一言でいえば知識と批判的な精神です。必要なのは一般の人々の立場に立って、世界経済や政治の仕組みの行き詰まりを批判すること。また古い習慣から脱して新しいアイデアを採り求めることです。若い人たちには、多くの知識をもち、さらに今あるものを何でもそのまま受け入れるのではなく、自分だけの新しいものを常に生み出していきたい」と

語ったのはゴン教授。川勝さんは「グローバル社会は、若い人たちにとっても日本にとっても1つのチャンスなのではないかと考えています。日本の中だけで考えるのではなく、例えば海外の企業に就職する、国際機関で働

く、そういうところまで視野を広げていくことでより大きな可能性の中で自分のキャリアを積んでいくということができるのではないのでしょうか」と、期待を示した。

そして、八木さんは「自分が何をしたいのか、自分の足元に何があるのかをしつかり考えることが、グローバル社会でおおれないための1つの手立てではないかと思っています。私が望むのは「鳥の目」と「虫の目」を持つということです。鳥の目はグローバルな視点、虫の目は目の前の自分の強みです。自分のローカリズム、自分の足元をアピールするところが個性を際立たせることにつながります。自分が何者なのかを明確に説明できるようにしておいてほしいですね」と話した。

英語ともう1カ国語を 学ぶ必要性

最後にゴン教授が「グローバル地域文化学部では、世界に目を向けて、自分と違う生活習慣を持っている人たちに会いたい、相違点や共通点を考えて自分の世界観を広げたい、あるいは遠い国で何が起きているのかを知りたい、そういう好奇心のある学生を

迎えたい。そして、グローバル化の過程を理解し、世界の国や地域は、グローバル化の中でそれぞれの社会をどのような形で構築しているのか、こういった点について理解できる学生を育てたいと思っています」と、学部としての人材育成の考え方を説明。

また「英語ができれば世界を理解できると思われるかもしれませんが、英語以外に世界には6800もの言語があるのです。英語は世界に通用するかもしれませんが、世界の本当の事情を知りたければ、それぞれの国の言語を学ぶべきです。英語以外にももう1つ学ぶ外国語を選んで、その言語で書かれた雑誌、新聞の記事を読み、テレビ、ラジオのニュースを見聞きして世界の事情を学ぶことを目指します」と、英語に加えてもう1カ国の外国語を学ぶ必要性について語った。さらに「同志社大学は国際交流を奨励する様々な留学プログラムを提供するほかに、新しい学部では国内外でのインターンシップも予定しています。学生にはその豊富なプログラムを利用して外国へ出かけて世界の多様性を自分の目で確認し、自分の体で経験してもらいたいです」と、新学部の特徴をアピールし、座談会を締めくくった。



八木 早希さん

2001年文学部英文学科卒業。フリーキャスター。アメリカ・ロサンゼルスで生まれ8歳まで過ごす。父親の仕事の関係で小学4～6年の3年間、韓国・ソウルで生活。さらに高校2年秋から3年の夏休みまでアメリカ・シアトルに留学した経験を持つ。



川勝 健司さん

2002年法学部政治学科卒業。認定NPO法人難民支援協会支援事業部長。英国ヨーク大学大学院政治学研究科の戦後復興修士課程修了。IOM(国際移住機関)ブリティッシュ事務所(コソボ)などでのインターンシップ、国際協力NGOでの海外駐在を経て現職。



アンヌ・ゴノン教授

フランス出身。リヨン第二大学とパリ第三大学で修士号と博士号を取得した後、日本の文部科学省の奨学金を得て来日。現在、グローバル・ジャスティスに関する研究を行う。

政策学部
今川晃ゼミ

地方自治の現場で

「問題発見・解決能力」を鍛える

2004年4月、同志社大学では実に55年ぶりの新学部として誕生した政策学部。グローバル化や情報化が急速に進み複雑化した現代社会で強く求められている「問題発見・解決能力」を養成する学部だ。法学部なら法学や政治学、経済学部なら経済学を学ぶが、政策学部で学びの対象になるのは「政策学」ではない。政策学部では実際の政策課題を柱に公共政策、企業政策、国際政策などを総合的に学習するカリキュラムを編成し、問題解決に必要なものが学べるようになっていく。そこでは、政策に関連した知識、理

論、手法の基礎を身につける一方で、フィールドワークなど学外での実践的なトレーニングがより重要な意味を持つ。

「文献だけで勉強していくと理論や知識は身につきますが、机上の空論に終わってしまいます。実態を学習することによって文献の読み方が変わり、研究する姿勢も地に根を張ったものになっていくのです」

こう話す今川晃教授は政策学部の学部長でもある。

政策学部のゼミは

2年次の秋学期からスタートする。今川ゼミの大きなテーマは「地方自治」。最初は関連する基礎的な文献を読むことから始まり、2年次の終わり頃から3、4人ずつのグループに分かれてグループ研究に入る。研究テーマは例えば、「地域と大学の連携について」であったり、「地域における子どもの安全施策」であったり

りと様々だ。

「地方自治という大枠に関連した事柄であれば何でも構いません。その研究の結果をグループごとに発表します。」

発表ではまず、なぜそれが問題なのかを説明し、課題を明確にしていきます。学生自身が問題を発見し、全国の他の地域ではどうか、時には海外の事例を問題提起も兼ねて紹介しながら、解決策を練っていくことになります」と教授。

この日の発表は、早野亮太さん、原田友翔さん、高安麻未さんによる「京都市営地下鉄のあり方」。現状分析から課題の発見、解決法の提案と1人ずつが研究の結果を説明。市民の足としての地下鉄を目指すために、宇治市におけるモビリティ・マネジメント(車中心の「まちづくり」から徒歩や公共交通を中心とした「まちづくり」に転換する取り組み)の事例を取り

上げたほか、財政健全化、公共交通利用促進への提言を行った。発表の間、他の学生たちは熱心に説明に聞き入り、メモを取る。TAとして今川先生をサポートする博士課程(前期)1年次生の山谷清秀さんが投げかける厳しい質問にも、発表した学生は的確に答えていく。

今川ゼミでは通常、授業に京都府職員等の自治体職員が参加することになっている。今年度は、京田辺市に近い京都府相楽郡笠置町から1名の職員が加わっている。「授業の中で発言することもあれば、学生の研究テーマに対して自分の町ではどうなっているかを説



今川 晃【政策学部教授】



明してもらうこともあり、自治体の実務家と学生の交流が図れ、学習効果がより高まるのです」教授が理由を説明する。

こうした教室での学習と併せて、学生たちの「問題発見・解決能力」を養うのに高い効果を上げているのが、教室外での様々な活動だ。1つは、滋賀県草津市の実践講座「人と街の未来をつくるカレッジ」(今川晃学長)。草津市コミュニティ事業団が主催し、毎年秋に10講以上行われているもので、市民の議論の場にファシリテータとしてゼミ生が参加して、議論を活性化させる役割を果たしている。

また、2006年に今川教授が発起人とな

い力が蓄えられていく、と教授は言う。

学生たちに、そもそもなぜ政策学部を選んだのかを聞いてみた。

まさしく「教室外での活動や多くの人とふれあう機会が多いこと」を理由に挙げたのは佐藤浩子

なって立ち上げた「全

国大学政策フォーラム

in 登別」(毎年秋開催)

では、全国から約10大学

のゼミが集まって、登別

市の分析を行い、市民の

前で報告、意見交換を

行う。2007年からは

京田辺(毎年春開催)で

も始まり、今年は新た

に熊本で民間主導の広

域交流をテーマとする

フォーラムを立ち上げ

る。これらに今川ゼミの

学生たちが参加して、

地方自治の実態の中か

ら問題を発見し自分で

解決策を考えることに

よって、教室では学べな

さん。『総合政策学部』でも『政策創造学部』

でもなく、シンプルな『政策学部』という名前

に惹かれて選んだのは大島道斗さん。櫻井

美咲さんは「1つに縛られずに多くのことを

網羅しながら学べるから」「宮崎翔吾さんも

「大学進学時にはまだ自分の進路を決めた

くなかったので、様々なことが学べる政策学

部に決めた」と言う。逆に「高校の時から公務

員志望で、将来の夢に一番近道だと思った」

と話すのは小濱希恵さんだ。「政策学部は自

分の学びたい分野を深く学ぶことができる

から」と、高校の先生に勧められたのは川崎

麻彩さん。宮城県出身で「地方自治に興味が

あった」のは邊見直子さん。「まちづくりや地

域活性化の勉強をしたくて」と言う広島県出

身の平川さほさんと、卒業後は出身の島根県

に帰り、公務員として「地方活性化のために

学んだことを活かしたい」と話す正野恵理さ

ん。政策学部の基本である「問題発見・解決能



力」が「社会へ出てどの道に進んでも絶対必要なスキルだと思った」と語る坂口賢吾さんは、小学校の教員が志望だという。

また、学生たちはこの政策学部での学びでどんなことを身につけたのだろうか。

「法学や経済学など分野を越えて総合的に物事を考えられるようになった」のは西裕美さん。野口歩美さんは「人前で話す力や自分の意見を

しっかり伝える力」「早野

亮大さんは「多様な人と

コミュニケーションをと

る能力」を挙げ、原田友翔

さんは「視野が広がり、物

事を考える時に多面的

に考えられるようになった

た」「高安麻未さんは「物

事に対して何でも理由を

求めるようになり、何と

なくではなくどうしてこ

うなるのかということに

納得してから消化するよ

うになった」「北岸享也さ

んは「以前は自分の考え

に芯が通っていなかった

が、いろんな方面、視野か

ら1つのことを考える中

で、自分の考えを確固た

るものにできた」と話す。

最後に今川教授は学生への期待をこう語った。

「様々な問題に遭遇した時に自らの力で決にチャレンジするエネルギーやパワーを身につけてほしい。問題に対してどうしようかと迷うのではなく、そうした問題に直面したことをプラスに捉えられるような思考を身につけてほしいですね」



朝鮮半島研究を進め、次世代の研究者を育てる「コリア学」の拠点

古代から日本は経済、文化、宗教などあらゆる分野で朝鮮半島の影響を受けてきた。渡来人の存在なくしては、成り立ち得なかった歴史的・社会的事象も少なくない。そんな朝鮮半島に関する研究を深め、次世代の研究者を育成することを目的に、2011年1月、「同志社コリア研究センター」が誕生した。今年4月、新たに立ち上がった「京都コリア学コンソーシアム」の拠点としても期待の大きいセンターについて、センター長の太田修グローバル・スタディーズ研究科教授に聞いた。

コリア研究センター

太田 修

【グローバル・スタディーズ研究科教授】

同志社大学と朝鮮半島とは歴史的に浅からぬ関係があることを「存じ」でしょうか。実は同志社の創立者・新島襄自身、朝鮮のキリスト者と交流がありました。1883年5月、東京で開かれた第3回国キリスト教信徒大親睦会に参加していた新島は、朝鮮のキリスト者・李樹廷（イ・スジョン）と出会い、漢詩の書を贈られています。その書は今も、新島旧邸（京都市上京区）に残されています。

また、今出川キャンパス内のハリス理化学館の横には、かつて韓国から留学していた詩人・尹東柱（ユン・ドンジュ）の詩碑があり、その隣にはもう1人の詩人・鄭芝溶（チョン・ジヨン）の詩碑が寄り添うように建っています。朝鮮半島出身者の石碑が2つもキャンパス内に建立されている大学は、日本では他にないでしょう。

こうした朝鮮半島とのかかわりもあり、近年、特に2000年以降、同志社大学において朝鮮半島研究者が増えてきました。ちょうどこの時期は、日本のテレビドラマや映画、音楽の世界で「韓流ブーム」が起って来たこともあり、韓国、朝鮮半島に関心が向いてきたという社会的背景も影響しています。そんな中、2005年に朝鮮半島研究者が交流する場として、社会学部と経済学部、言語文化教育研究センターの教員が集まり、「同志社朝鮮半島研究ネットワーク」が立ち上がりました。その後、研究者の層が厚くなったこともあり、2011年1月、同ネットワークを発

A 新島旧邸に残されている
李樹廷(イ・スジョン)から
贈られた漢詩の書。

人省信心如木青根不省仁愛根
木長愛之於心如水潤根於冬寒
萬事根不朽常春指生花葉葉
茂新天信道花与淑實景と満
枝乳甘且碩群如松柏霜雪ふ潤
西京心會諸愛と神同心 朝鮮李樹廷

展的に解消。同志社大学内の教員、客員教授、客員研究員、大学院生、学部生ら、朝鮮半島研究にかかわる者同士の横のつながりをつくり、教育・研究・国際交流の面で一層の拡充を図るとともに、京都はもちろん、日本、さらには東アジアにおける朝鮮半島研究の1つの拠点となることを目指して、「同志社コリア研究センター」を設立したのです。一口に朝鮮半島の研究と言っても分野は様々です。私は歴史ですが、他には経済や社会学、スポーツの領域で研究を進めている人もいます。ですから、センターとして1つの研究テーマを設けるというのではなく、このセンター自体が研究

者、市民を含めて、様々な人々が集まってくる場所、朝鮮語で言う「マダン(広場)」の役割を担っています。

当センターの目的は、研究者同士が交流してそれぞれの研究を発展させていくということももちろんありますが、大きくは次世代の若手の研究者を育成していくことです。研究者が集い交流し、若手研究者を育てていく。そこで大きな意味を持つのが、今年4月に設立した「京都コリア学コンソーシアム」です。これは、京都大学の「朝鮮・韓国学教育研究ネットワーク」、立命館大学の「コリア研究センター」、佛教大学の「韓国・朝鮮学研究者ネットワーク」、そして当センターの4大学の朝鮮半島研究機関が集まり、交流しながら朝鮮半島に関する研究を深め、共同して次世代の研究者の育成を目指すというものです。当センター自体、このコンソーシアムの設立を念頭において開設したという側面があり、現在はコンソーシアムの拠点として運営事務局の役割を果たしています。

が1人ずつ出席し、朝鮮半島にかかわることであれば専門分野を問わず、広く発表を行います。この春学期に4回行い、秋学期にも予定しています。8月には、若手研究者を対象にしたワークショップを立命館大学で開催。韓国の大学院生やコンソーシアムの加盟大学に在籍している学生を中心に15人が研究報告をし、さらに教員も参加して討論会を実施しました。

2つ目は国際学術会議です。昨年は韓国の高麗大学校民族文化研究院との共同開催により、ソウル・京都相互訪問国際学術会議を「植民地研究の最前線」というテーマで計4回開催しています。また、海外との交流という点では、韓国の大学とのシンポジウムを中心として、そこにアメリカやヨーロッパ、中国で朝鮮半島について研究している人たちにも加わってもらうことを考えています。来年は、同志社大学と協定を結んでいる韓国の延世大学がドイツの大学とも共同研究を行っていますので、できればそこに本学も参加したいと思っています。

したがって、当センターの主な活動で現在行っているのは、まず1つが毎月の定例研究会です。コンソーシアムの4大学から若手の研究者

10年ほど前までは、朝鮮半

島だけでなく東アジアへの関心が、一般的にはあまり高くありませんでした。その意味で2003年頃からの韓流ブーム以降、生活・文化レベルで音楽、ドラマ、映画などが日本でも受け入れられるようになり、人気を呼んでいるのは喜ばしいことです。現在、それぞれ年間約400万人が韓国、中国と行き来しています。日本、中国、韓国のトライアングルで交流があり、しかも極めて密になっています。それに比較すると、学問レベルでの研究はまだまだ関心が低い段階にあると言わざるを得ません。ですから、きっかけは何でも構いませんので、とにかく当センターの扉をたたいて研究に踏み込んでみてほしい。そうすれば、ヨーロッパやアメリカでは見えなかったものが見えてくるのではないかと思うのです。

B 今出川キャンパスのハリス理化学館の横に建つ詩人・尹東柱(ユン・ドンジュ)の詩碑。

C 今年4月、4大学の研究者たちが集まり、同志社大学で「京都コリア学コンソーシアム」設立の調印式が行われた。



2011年度

大学決算について

財務部 経理課

2011年度大学決算は、2012年5月10日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月26日開催の法人理事会で承認されました。

2011年度の教学組織に関する改革は、建学の理念である「国際主義」をさらに推進する諸事業に重点的に取り組みました。京田辺校地では、グローバル社会で活躍する人物を育成する「グローバル・コミュニケーション学部」を開設しました。今出川校地では、文系学部を横断する「国際教育インスティテュート」を開設しました。また、初等教育段階からの国際人育成を目指す取り組みとして、大学附属となる「同志社国際学院」を木津川市に開設しました。さらに、国際的な教育研究拠点としてのハード面・ソフト面のより一層の充実を図るため、外国人留学生および外国人客員教員用宿舎の確保や、外国人留学生を対象とした新たな奨学金制度の導入を行いました。

研究力をより一層強化するために、国公私立大学を通じた競争的研究資金による諸事業に意欲的に取り組んだ結果、日本学術振興会の「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に「多文化共生時代における一神教コミュニティ間の相互作用と対話」、文部科学省の「再生医療の実現化プロジェクト 再生医療の実現化ハイウェイ」に「培養ヒト角膜内皮細胞移植による角膜内皮再生医療の実現化」がそれぞれ採択されました。

東日本大震災・復興支援への取り組みとして、被災により学資支弁困難となった在学生に対しては学費全額を免除する特別措置を実施するとともに、新入生については入学金も全額免除としました。

地域に根ざした社会貢献事業にも積極的に参画し、京田辺校地開校25周年を記念した「京田辺祭」については、「国民文化祭京都2011」との連携企画として開催されました。

将来に向けての改革では、2013年度からの文系学部一貫教育体制の構築を目指して今出川キャンパス移転整備事業に継続的に取り組み、同志社中学校舎跡地における新校舎建設など、本格的な整備に着手しました。また、学研都市キャンパスでは、脳の仕組みを研究対象とする「脳科学研究科」(2012年4月開設)の設置に向けての準備に取り組みしました。

上記のとおり、2011年度は、従来から継続している国際化の推進や今出川キャンパス移転整備事業等を中心に必要な財政的支援を行いました。支出面においては、教育研究に係る各事業での経常的経費の節減や退職給与引当金繰入額の減額に伴う人件費の執行残などにより、予算と比較して減少となりました。一方、収入面では、入学志願者数を安定的に確保したことによる入学検定料の増加や、今出川キャンパス新校舎建設資金募金による寄付金の受入れ、受託研究事業の採択に伴う外部資金の獲得に継続的に取り組んだことにより、予算よりも増収となっています。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は312億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は77%と大きな比重を占めています。

手数料は18億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は6億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、今出川キャンパス新校舎建設資金寄付金を受入れました。

補助金は37億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助25億円、特別補助7億円を受入れています。その他の国庫補助金では、施設設備対象の補助金として研究装置、研究設備などの採択を受け、さらに戦略的な国際化拠点の形成を目的とした国際化拠点整備事業費補助金(グローバル30)、最先端研究開発戦略的強化費補助金(頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム)などを受入れました。

資産運用収入は7億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は9億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は13億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入、烏丸キャンパス土壌汚染対策事業に係る京都市からの収入が主なものです。

繰出金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

当期固定資産除却額は9億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払

金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は27億円で、今出川校地整備事業に充当する大学今出川校地整備資金の取崩額です。

特定支出準備金取崩額は2億円で、中高統合事業会計精算に係る準備金および使途が特定された準備金の取崩額などです。

収入の部合計は446億円となり、手数料、寄付金、資産運用収入、雑収入などの増収および当期末未払金の増加などにより予算に対して7億円の増加となりました。

支出の部

人件費は197億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は48%となりました。退職給与引当金繰入額の減などにより、全体では予算に対して3億円の減少となりました。

教育研究経費は140億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は15億円で、大学の維持管理に要した経費です。

繰入金金は6億円で、法人内諸学校への資金調達による繰入額が主なものです。

施設関係支出は54億円で、今出川校地整備事業や脳科学研究科整備事業などによる支出です。

設備関係支出は16億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

当期固定資産受贈額は1億円で、現物寄付金に相当する固定資産の取得額です。

借入金等返済支出は2億円で、償還計画に基づく計画分です。

前期末未払金は1億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、今出川校地整備資金の20億円を組み入れました。

第3号基本金組入額は、寄付金および過年度から保有している準備金の一部を基金に組み入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は11億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は466億円で、予算に対して7億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は20億円の支出超過となり、学生生徒等納付金以外の収入の増加や教育研究経費の執行残などにより、予算に対して15億円支出が減少しました。なお、累積消費収支差額としては313億円の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して2億円減少し、当年度末では7億円となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は315億円でしたが、当年度末は5億円増加して320億円となりました。

(本文中の金額については1億円未満を調整しています)

■収支計算書

2011年4月1日から2012年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	31,399,180	31,183,876	215,304
手数料	1,699,750	1,794,052	△ 94,302
寄付金	268,850	601,273	△ 332,423
補助金	3,683,460	3,705,238	△ 21,778
資産運用収入	623,460	722,687	△ 99,227
資産売却差額	0	10,280	△ 10,280
事業収入	952,920	898,872	54,048
雑収入	991,160	1,300,071	△ 308,911
繰出金	275,700	272,851	2,849
分担金	128,580	128,580	0
(帰属収入合計)	(40,023,060)	(40,617,780)	(△ 594,720)
当期固定資産除却額	882,100	916,392	△ 34,292
借入金等収入	0	0	0
当期末未払金	36,270	99,875	△ 63,605
第2号基本金取崩額	2,760,000	2,760,000	0
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(3,678,370)	(3,776,267)	(△ 97,897)
特定支出準備金取崩額	130,590	207,038	△ 76,448
[収入の部合計]	[43,832,020]	[44,601,085]	[△ 769,065]

用語解説

● 収 支 計 算 書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが「収支計算書」です。

● 基 本 金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

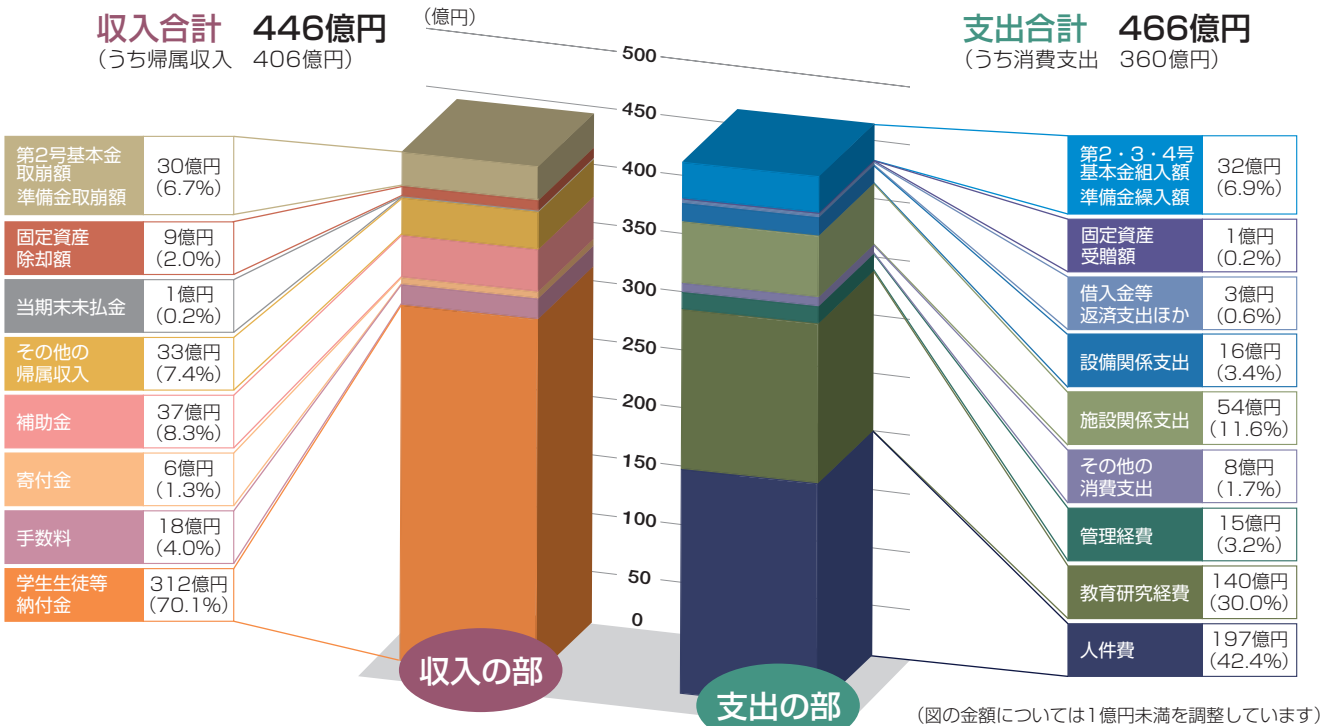
第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	20,017,580	19,680,202	337,378
教育研究経費	14,392,510	13,955,306	437,204
消耗品費他	11,142,810	10,703,588	439,222
減価償却額	3,249,700	3,251,718	△ 2,018
管理経費	1,554,730	1,546,728	8,002
消耗品費他	1,410,120	1,401,216	8,904
減価償却額	144,610	145,512	△ 902
借入金等利息	15,610	15,609	1
資産処分差額	5,470	64,541	△ 59,071
徴収不能引当金繰入額	86,930	71,473	15,457
徴収不能額	0	11,838	△ 11,838
繰入金	576,820	607,218	△ 30,398
予備費	120,000	—	120,000
(消費支出合計)	(36,769,650)	(35,952,915)	(816,735)
施設関係支出	5,867,500	5,375,406	492,094
設備関係支出	1,846,340	1,578,634	267,706
当期固定資産受贈額	0	149,110	△ 149,110
借入金等返済支出	206,080	206,080	0
前期末未払金	125,040	125,042	△ 2
第2号基本金組入額	2,000,000	2,000,000	0
第3号基本金組入額	0	5,000	△ 5,000
第4号基本金組入額	112,300	112,300	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(10,157,260)	(9,551,572)	(605,688)
特定支出準備金繰入額	443,430	1,118,968	△ 675,538
[支出の部合計]	[47,370,340]	[46,623,455]	[746,885]

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度消費収支差額)	(△ 3,538,320)	(△ 2,022,370)	(—)
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	2,901,040	1,369,109	—
[繰入取崩後当年度消費収支差額]	[△ 637,280]	[△ 653,261]	[—]
[前年度繰越消費収支差額]	[△ 30,645,910]	[△ 30,645,915]	[—]
[翌年度繰越消費収支差額]	[△ 31,283,190]	[△ 31,299,176]	[—]

借入金			
科目	予算	決算	差異
[前年度末借入金残高]	[△ 928,690]	[△ 928,690]	[—]
当年度借入額	0	0	—
当年度返済額	206,080	206,080	—
[当年度末借入金残高]	[△ 722,610]	[△ 722,610]	[—]

■収支構成図





イスタンブール事務所 開所式の開催



7月14日、トルコ・イスタンブールにて同志社大学イスタンブール事務所開所式を開催した。このイスタンブール事務所は「PASIAD (Association of Social And Economic Solidarity with Pacific Countries)」内に設けられ、日本・トルコ両国の未来を担う学生の交流促進、学術・研究の高度化・グローバル化を推進するための研究者交流を目的とした、本学7番目の海外拠点となる。

開所式では「PASIAD関係者、トルコの高校・予備校関係者のほか、林克好在イスタンブール日本国総領事にも出席いただいた。協定書の調印、八田英二学長、Bahri Agaglu PASIAD理事長の挨拶の後、テープカットを行い、歓談となった。

終始和やかな雰囲気の中、意見交換が

行われ、今後、日本とトルコの学生交流・研究者交流を推進していくことで、両国の発展に寄与していくことが確認された。

同日、夕刻には「Fetih Koceli Topkapı Kampüsü」にて、本学の大学説明会・夕食会を開催した。八田学長の挨拶の後、龍城正明副学長の大学紹介、Gregory POOLE 国際教育インスティテュート所長による国際教育インスティテュートの紹介を行い、最後に日本とトルコの関係について、内藤正典グローバル・スタディーズ研究科長がトルコ語で講演を行った。

約50人のトルコ教育関係の参加者は、説明会終了後、教員に個別質問するなど本学に高い関心を示しており、今後の留学生確保につながることが期待される。

翌15日には、イスタンブール市内のレストランにて、レセプションを開催した。トルコ政府関係者や大学関係者などを招待し、約70人の方々にお越しいただいた。日曜日の夜ということもあり、家族同伴で参加される方が多く、非常に穏やかな雰囲気の中で、本学教員との交流があり、積極的な意見交換もなされた。

全日程を通して多くの出席者が集まり、また、日本経済新聞社の取材を受けるなど本学に対する注目度の高さがある。今後、日本とトルコ両国の関係を発展させる上でも、本学の果たすべき役割が重要であると改めて認識するところである。

(国際連携推進機構)

国際会議 「アフガニスタンの和解と 平和構築」開催

6月27日、グローバル・スタディーズ研究科、一神教学際研究センター、アフガニスタン平和・開発研究センターの共催により、「アフガニスタンの和解と平和構築」に関する国際会議を開催した。

会議には、イアデナム・ハンマド師(アフガニスタン・イスラーム首長国・タリバン)、アブドゥッサラーム・ザイーフ師(元タリバン政権の駐パキスタン大使)、ガイラト・バヒール氏(イスラーム党政政治局長)、政権側からはマンスーム・スタネクザイ大統領顧問(高等教育評議会事務局長)、そしてアフガニスタンで学校建設と運営を続けるトルコ系NGOから、ヌマ・ン・エルドアン氏が参加した。



八田英二学長による開会の言葉に続いて、第一部では基調講演、第二部では議論を行い、第三部では和解と平和構築へ向けての打開案が提示された。タリバンが公式に代表団を国際会議に送るのは初めてであり、政権側と出席したのも初めてのことで、今後の和平交渉への第一

歩が本学から踏み出されたことの意義はきわめて大きいものと言える。

(グローバル・スタディーズ研究科教授 内藤正典)

「リエゾンオフィス・知的 財産センター開設10周年 記念フォーラム」を開催

7月11日、ホテルグランヴィア京都にて「2012年度同志社大学リエゾンフェア」(主催:同志社大学リエゾンオフィス・知的財産センター、後援:近畿経済産業局、京都府、京都市、同志社校友会大阪支部産官学部会(LCC)、NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク)を開催した。

リエゾンフェアは、本学の産官学連携活動を広く知っていただくために毎年テーマを定めて開催するフォーラムで、本年度は、リエゾンオフィス・知的財産センターの設立10周年記念フォーラムとして行った。

「産官学連携活動の活性化を通じて」研究力の同志社大学「へ」をテーマに、基調講演では「日本経済の動向と産官学連携活動の



同志社大学用地の一部貸与について

2011年12月12日、室町自治連合会から本学宛に、本学のキャンパス整備に合わせて、学区の安心・安全の拠点である上御霊前交番の老朽化建替えに伴い、地元住民も使用できるコミュニティールームの機能を含めた交番の移転設置について、要望書が提出されました。

また、2012年3月8日には京都府警察本部から、所管区域の中心で、地域の小学校や中学校に近接する本学敷地に対して、地域の安全・安心のため、その一部を交番用地として借用したい旨の要望書が提出されました。

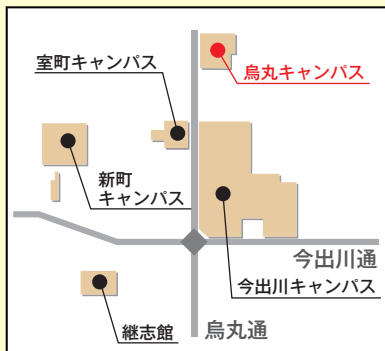
これらの要望を受け、本学として慎重に検討した結果、新たに取得し

た烏丸キャンパス(京都市産業技術研究所繊維技術センター跡地)の北西角(109.2㎡、左図参照)を、地域貢献の観点から無償貸与することを決定しました。

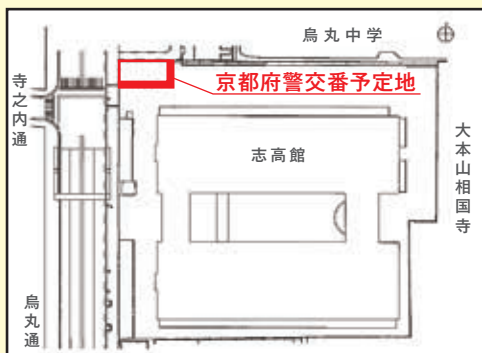
移転予定の交番は、本学キャンパスとはフェンスにより一線を画します。で、キャンパス外に位置する建物になります。あくまで「地域貢献のための大学用地の一部貸与」であり、「キャンパス内に交番を設置する」との認識には立っておりません。このたびの交番移転が、地域の防犯、地域住民の安心・安全に寄与することを願っています。

(地域連携推進室)

今出川校地周辺図



烏丸キャンパス(拡大図)



有用性」と題して、浜矩子ビジネス研究科教授による講演が行われた。その後、橋本雅文リエンオフィスの知的財産センター所長が「産官学連携活動のさらなる活性化を目指して」と題して、本学の産官学連携実績を紹介するとともに、次の10年に向かつて今後取り組みべき課題を説明した。また、本学と産官学連携活動実績のある企業3社と支援機関より講演をいただいた。

基調講演では、日本経済の現状と今後を踏まえ、産官学連携活動がどうあるべきかなど、今後の産官学連携活動の展開に関して示唆に富んだ提言をいただき、約280人の参加者は熱心に聞き入っていた。また、企業による産官学連携の実績報告では、理工系・生命系・文理融合系の成功事例を発表していただいた。プログラム終了後に開催した情報交流会でも多数の参加者があり、企業・行政・大学間での異業種交流が活発に行われた。産官学連携活動のさらなる活性化を期待しつつ、盛会のうちに終了した。

(研究開発推進課)

オープンキャンパス 2012開催

7月29日は京田辺キャンパス、8月5日は今出川キャンパスでオープンキャンパスを開催した。晴天に恵まれ、両キャンパスで約15,500人が来場した。来年度のキャンパス再編の影響が、特に今出川キャンパスで



は約1,500人の増加であった。

両日とも、教員による学部・学科紹介、模擬講義、一般入試の英語の問題を教員が解説する「同志社の英語を学ぼう!」、大学紹介・入試説明会、AO入試

説明会、保護者説明会などを実施した。個別相談ブースでは、受験生や保護者からの様々な質問に、教職員、在学生が丁寧に対応した。また、2013年4月開設のグローバル地域文化学部の学部紹介や模擬講義、本学卒業生をパネリストとして迎えた開設記念イベントも好評だった。その他、研究室、実験施設の紹介、学部の独自企画イベントや図書館見学、キャンパスツアー(京田辺キャンパスのみ)なども行われ、活気溢れる充実した2日間となった。

(入学課)



ロンドンオリンピック

7月27日に開幕したロンドンオリンピックに、在学生1名と本学の卒業生4名が出場した。

水泳女子400m自由形では、在学生の高野綾選手(スポーツ健康科学部1年次生)が、残念ながら予選敗退となったが、女子800mリレーでは決勝に進み最終泳者として出場し、8位入賞を果たした。

トライアスロン女子では、体育会水泳部OGの足立真梨子選手(商学部06年卒)が、14位という成績を取めた。

陸上競技では、体育会陸上競技部OGの我孫子智美選手(社会学部10年卒)が、女子棒高跳びに出場したが、残念ながら予選敗退という結果になった。

フェンシング女子フルーレ個人では、体育会フェンシング部OGの池端花奈恵選手(商学部05年卒)が、ベスト4をかけた試合で敗れたが、8位入賞を果たし、女子フルーレ団体では準々決勝まで進み、1984年ロサンゼルス五輪8位を上回る7位となった。また同じくOBの太田雄貴選手(商学部08年卒)は、男子フルーレ個人3回戦で、世界ランキング1位で現世界チャンピオンと対戦し、惜しくも敗れベスト16という結果に終わったが、男子フルーレ団体では、準決勝で劇的な勝利を飾り、団体戦で史上初の銀メダルに輝いた。

(スポーツ支援課)

本学留学生が祇園祭に参加

本学留学生のデレク・アーサーさん(コロンビア大学)とダン・アンスコムさん(ケンブリッジ大学)の2人が、南観音山から祇園祭に参加した。

デレク・アーサーさんはKJCS (Kyoto Consortium for Japanese Studies) のスタッフから日本で珍しい経験ができると紹介されて参加。また、ダン・アンスコムさんは卒業論文のテーマが日本文化に関するものであり、それを直接学ぶ良い機会であると指導教授からの推薦があり、参加した。



本学の外国人留学生が山鉦巡行に参加するのは今回が8回目。京都の灼熱の太

陽のもと、7月17日午前9時過ぎに出発。京都市内の大通りを5時間近く歩き、京都でしか味わえない日本の伝統行事を満喫した。



(広報課)

法学研究科ダブル・ディグリープログラム第2弾!

法学研究科では、世界を舞台に活躍できる人材養成を目的に2012年度開始したダブル・ディグリープログラムの第2弾として、近年躍進が目覚ましい成均館大学(Graduate School of Governance (韓国・ソウル市)と提携し、2013年4月より学生の相互受け入れを行うことになった。

本プログラムでは、学生は2年間のうち1年をそれぞれ両大学で学び、履修単位と修士論文(英語)の相互認定により、双方の大学から2つの修士号(M.A.)を取得することが可能になる。

主な特徴として、学生の韓国語能力の有無は問わない、必修科目は英語で実施しつつ留学生の便宜をはかるため日本語

での授業にもミディエータ(日英同時通訳)を導入する等、趣向を凝らした構成を目指した。



「詳細は法学研究科ホームページ内「次世代リーダー養成プログラム」<http://law.doshisha.ac.jp/plp/>」

(法学部・法学研究科事務室)

新任教員紹介

この度、10月より新たに次の先生方をお迎えしました。

①所属 ②職名 ③主な担当科目



Gustavo A. Tanaka

(タナカ グスタボ)

①ビジネス研究科

②准教授

③Accounting

2012年度 卒業式・学位授与式 / 2013年度 入学式

入学式				卒業式・学位授与式(学部)(大学院) 留学生別科修了式					
栄光館	寒梅館 ハーディーホール	京田辺校地 デイヴィス記念館			京田辺校地 デイヴィス記念館	栄光館			場所
4月3日(水)	4月2日(火)	4月1日(月)			3月22日(金)	3月21日(木)		3月20日(水・祝)	日時
10時	16時30分	14時	12時	10時	13時30分	15時	12時30分	10時	15時 12時30分 10時
全研究科	国際教育インスティテュート 日本語・日本文化教育センター 留学生別科	生命医科学部 理工学部 グローバル・コミュニケーション学部	商学部 政策学部・文化情報学部 スポーツ健康科学部	文学部・社会学部 経済学部・心理学部 グローバル地域文化学部	理工学部・工学研究科 心理学部・心理学研究科 スポーツ健康科学部 生命医科学部・生命医科学研究科 文化情報学部・文化情報学研究科	商学部・商学研究科 経済学部・経済学研究科	留學生別科 グローバル・スタディーズ研究科 アメリカ研究科 社会学部・社会学研究科	ビジネス研究科 社会学部・社会学研究科 法学部・法学研究科 神学部・神学研究科 政策学部・総合政策科学研究科 司法研究科	文学部・文学研究科 法学部・法学研究科 神学部・神学研究科 学部・研究科

本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

- 日本文化の美と醜 岸文和 他著 風媒社 4,200円
- 日本文化の中心と周縁 岸文和 他著 風媒社 3,800円
- 政治学をつかむ 森裕城 他著 有斐閣 2,200円
- 歴史のなかの天皇陵 北康宏 他著 思文閣出版 2,500円
- 社会心理学 柴内康文 他著 新曜社 2,400円
- 源氏物語の展望 第八輯 岩坪健 他著 三弥井書店 5,800円
- 移民研究と多文化共生 和泉真澄 吉田亮 他著 御茶の水書房 3,500円
- 日本の企業家群像Ⅲ 第六巻 食と健康の覇者(DVD) 石川健次郎 監修 丸善 27,562円
- 記者クラブ解体新書 浅野健一 著 現代人文社 1,900円
- 横井小楠公共の政を首唱した開国の志士 沖田行司 他著 東京大学出版会 4,700円
- 近代日本語教科書選集 第11巻―第14巻 李長波 編集解説 クロスカルチャー出版 5,000円
- 流動化のなかの社会意識 小林久高 他著 東京大学出版会 4,800円
- ローカル・ガバナンスと参加 永田祐 著 中央法規出版 3,800円
- 経営労務事典 岡本博公 谷本啓 中村純子 他著 晃洋書房 2,500円
- 中世人のたからもの 鮎柄俊夫 他著 高志書院 2,500円
- 多国籍企業の世界的再編と国境経済圏 上田慧 著 同文館出版 3,200円
- 日本の科学者101 宮島一彦 他著 新書館 2,000円
- イスラーム信仰と現代社会 四戸潤弥 他著 国書刊行会 2,500円
- 観光文化と地元学 井口貴 編 井口貴 他著 古今書院 2,800円
- 国際会計基準と日本の会計実務 3訂補訂版 古賀智敏 監修 古賀智敏 他著 同文館出版 6,800円
- 認知行動療法家のためのACTガイドブック 武藤崇 他監訳 武藤崇 他訳 星和書店 3,200円

新島旧邸 特別公開 開館日・見学方法の変更について



2013年大河ドラマ「八重の桜」放映に伴い、新島旧邸の開館日・見学方法が変更になりました。変更の概要は次の通りです。

■特別公開期間…2013年12月27日まで

原則として、毎週火曜日を除く毎日開館

※2014年1月以降は通常の開館となる予定です。

■開館時間…(午前の部)10時～13時(午後の部)13時～16時

※入館受付は15時30分までお願いいたします。

■休館日…毎週火曜日

■年末年始(2012年12月28日～2013年1月5日)

夏期(2013年8月12日～16日)

■見学対象…母屋1階と附属屋

■見学申込…個人・団体ともインターネットによる予約申込制

(見学予約申込サイト <http://kyutei.doshisha.ac.jp/> から予約)

インターネットが使えない場合はFAXでの申込み

FAXでの申込みは所定の申込書に、

①見学希望日(午前・午後いずれか、第3希望まで)

②見学代表者氏名

③連絡先(郵便番号・住所・電話及びFAX番号)

④見学人数

を記載の上、1週間前までに同志社社史資料センターまでお申し込みください。

※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

※東日本大震災復興協力金(募金)をお願いしております。

お問い合わせ

同志社大学 同志社社史資料センター

TEL…075・251・3042

FAX…075・251・3055

„Du kannst alles was du willst, wenn du wirklich willst!“

Manchmal, wenn ich morgens mit meinem Fahrrad das kleine Stück vom Wohnheim durch den Kaiserpalast zum Imadegawa-Campus fahre und dann langsam auf das Haupttor zusteuere, muss ich plötzlich lächeln. Es sind diese Momente, in denen mir bewusst wird, dass sich ein Traum für mich erfüllt hat. Wahrscheinlich weiß nicht jeder Student zu Beginn seines Studiums ob, oder wo er mal im Ausland studieren möchte. Ich wollte an der Doshisha studieren, das war mein fester Entschluss; schon zu Beginn meines Japanischstudiums. Warum? Ich hatte schon gehört, dass das Nichibun Programm am Center for Japanese Language and Culture der Doshisha Universität sehr gut und intensiv ist. Und auch das weitere Kursangebot für Austauschstudenten erschien äußerst vielfältig. Zudem befindet sich die Doshisha in der schönsten Stadt der Welt, Kyoto, in der die traditionelle und die moderne Kultur Japans nebeneinander bestehen, mit ihren unerschöpflichen Möglichkeiten, zahlreichen Tempeln und Schreinen, traditionellen Künsten und wunderschöner Natur. So ein perfektes Umfeld bietet eben nur die Doshisha.

„Du kannst alles was du willst, wenn du wirklich willst!“ sagt meine Mutter immer...und hier bin ich. Ob es so ist, wie ich es mir vorgestellt habe? Nein, denn dass die Lehrer uns hier mit so viel Leidenschaft unterrichten, dass ich so viele Dinge außerhalb des Klassenzimmers lerne und in wie kurzer Zeit ich wirklich gute Freunde gefunden habe, die zu meiner kleinen „Japan-Familie“ geworden sind, das hätte ich mir gar nicht vorstellen können.

Was ich zukünftigen Austauschstudenten raten möchte? Nutzt jeden Tag, seid offen für Unbekanntes und habt einfach Spaß! Kostet euer Studentenleben in vollen Zügen aus und sorgt dafür, dass viele unvergessliche Erinnerungen entstehen!

OKUMURA AGATHE

「本当にやりたいことなら、すべてできるよ」

朝、学生寮から自転車に乗り、御所を通り抜けて今出川キャンパスの正門に向かう時、ふと笑顔が溢れ出てくることがあります。それは、自分の夢が本当に叶ったのだと改めて感じる瞬間。おそらく、母国の大学に入学したばかりの時には、留学するのか、どここの大学に行くのか決めていない人が多いのではないのでしょうか。でも私の場合、日本学を勉強し始めた時から同志社大学に留学しようと心に決めていました。なぜなら、同志社大学日本語・日本文化教育センターは、日本語をしっかりと学べるプログラムがあり、留学生に多くの授業のオプションも準備されていると聞いていたからです。また、伝統と近代的な日本文化が入り交じった、世界で一番素敵な町「京都」で、数多くの寺や神社、日本芸術や芸能、美しい自然に触れ、無限の可能性に出会うことができると思いました。このような完璧な環境を備えているのは、同志社大学をおいてほかにはないと考えています。

「本当にやりたいことなら、すべてできるよ」と母はいつも言います。その言葉通り、私は今やりたいことを実現しています。ここでの生活は自分の想像していた通りかと聞かれたら...私はきっと、「いいえ」と答えるでしょう。なぜなら、熱心に指導をしてくださる先生方、教室の外でも沢山のことが学べる環境、たった数週間で私の小さな「日本の家族」と呼べるようになった友人達と知り合えたこと、これらはここに来る前には全く想像もしなかったことだからです。もし、これからやってくる留学生にアドバイスするなら、「心を開き、とにかく楽しんで。」と伝えたいですね。これから同志社で学ぶみなさん1人ひとりが、同志社大学での学生生活を満喫し、忘れない思い出をたくさんつくられることを願っています。

奥村 アガース

2012.4～2013.3 日本語・日本文化教育センターに在学(ドイツ出身)

The era we are living in
today is a dream coming true.

Walt Disney

同志社人
訪問

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 コンシューマー・プロダクツ セネラルマネージャー

中澤一雄さんに聞く

インタビュー
長谷部 衣純 さん
【商学部4年次生】



長谷部 ●今日はとても楽しみにして来ました。実は、卒業論文のテーマを「ディズニーの経営戦略」としているものですか。

中澤 ●そうなんです。お役に立てるよう何でも聞いてください。

長谷部 ●ここに来るまでに、社内に表示されているディズニーのキャラクター商品を見せていただいたのですが、大人向けのグッズがたくさんあるのに驚きました。

中澤 ●私のいるコンシューマー・プロダクツは、ディズニーの商品ライセンスシンディング事業が主な業務で、特に今年はウォルト・ディズニーの生誕110周年ということから、様々なメモリアルイベントを展開しています。記念の商品もたくさんつくっていて、それらの多くは、実は大人向けです。そうした「大人ディズニー」は日本が発信元になっています。パークにしても、子供よりも大人の来場者が増えており、これは日本ならではの特徴です。

長谷部 ●パークはファミリーやキッズをターゲットにしたが、大人も楽しめる展開を行ってきたことは知っていました。グッズにおいてはより大人向けに特化したアプローチを行っているということですか。

今回の同志社人

中澤 一雄さん

【1973年工学部電子工学科卒業】

1950年生まれ、奈良県出身。卒業後、日本マクドナルドに入社。オペレーション部門のディレクターやマーケティング部門のシニア・ディレクターを歴任。米国マクドナルド社本社に5年間勤務。1999年、ディズニーストア・ジャパン(株)にストア・オペレーションのディレクターとして入社。同社の経営再建に手腕を発揮した。2002年、日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)に入社し取締役執行役員常務として活躍。2008年4月、ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)入社。同年10月、コンシューマー・プロダクツ部門のゼネラルマネージャーに就任。現在に至る。

中澤 ●消費者の調査をしてわかったのは、ディズニー商品は大人の支持を集めているものの、肝心の大人向けの商品がこれまではあまりなかったということ。そこで、ここ数年は大人の、特に女性向けの商品展開を強化し、現在当社は約350社の企業とライセンス契約を結んで多様な商品を展開しています。中でも、住宅の内装、キッチングッズ、ラグやカーペットなど、キャラクターがさりげなく付いていて、シックで高いデザイン性を備えた大人が楽しめる設えの商品が特に増えています。昨年からいからはコスメティック関連の商品も発売していますから、ぜひ初めてのお給料で買ってください(笑)。

長谷部 ●わかりました(笑)。

中澤 ●今、日本人の平均年齢が40代半ば。今後は50歳以上の人たちもターゲットにして、赤ちゃんからお年寄りまですべての層をディズニーファンにしていく考えです。

長谷部 ●もともと幅広い層に人気があっ



たのを、これからはさらに広げていこう
ということですね。

中澤 ● 来年、パークが開業30周年なので
すが、30年前に4、5歳のお子さんを連
れて初めてパークを訪れてくれた35歳く
らいのお父さん、お母さんが、今はおじい
ちゃん、おばあちゃんになっている。親・
子・孫の合わせて3世代でディズニーの
ファンになってくれています。

長谷部 ● 私たちの世代はもちろん、もは
やディズニーを知らない世代の人たちは
いないのではないでしょう。

中澤 ● そうですね。毎年日本の全企業のブ
ランドランキングを経済紙が発表してい
るのですが、今年、ディズニーは第5位で
した。全世界の調査では9位です。この強

力なブランドパワーが、私たちのビジネス
のバックボーンになっていることは確か
ですね。

長谷部 ● ところで中澤さんは、同志社大
学を卒業後、マクドナルドに入社されて
から、ケンタッキーフライドチキン、ディ
ズニーと、ずっと外資系企業に籍を置いて
こられました。工学部のご出身で、なぜ
こういう道のりを歩もうと思われたので
すか。

中澤 ● 同志社香里高校に通っていた時か
ら理系の科目が得意で、医学部に行きた
いと考えていた頃もありました。ところが
両親に反対されてその夢は断念し、工
学部で電子工学を学んだのです。私の両親
が会社を経営していたこともあり、次

第にピープルマネジメント、つまり人材を
うまく活用したり、人の能力を開発した
りする仕事を目指すようになりました。

長谷部 ● それで最初の就職先が日本マク
ドナルドだったのですか。

中澤 ● マクドナルドなら店舗も多くあり
ますし、新卒で入ってすぐに人を使う立
場に立てるだろうと考えました。

長谷部 ● 最初から部下を持つ立場にな
り、苦労はありませんでしたか。

中澤 ● 入社して胃潰瘍になるほど苦労し
ましたし、挫折も経験しましたが、人生の
どこで苦労するのがいいのかといえば、
やはり若い時にしておいた方がいいと思
いますね。立ち直るのも早いですから。

長谷部 ● 私は人事労務管理論のゼミに
入っていて、ちょうどピープルマネジメン
トについて学んでいるのですが、早くから
多くの人を動かしてきた中澤さんが特に
気をつけられたのはどんな点ですか。

中澤 ● 人は百人百様です。1人の事例が
全員に当てはまるわけではありません。
ですから、その場にに応じてフレキシブル
に対応することが大事です。そしてもう
1つ、日本人はえてして上司に対して気
配りすることが多いのですが、そうでは
なく大切なのは部下に対する気配りなの
です。部下が働きやすい環境をつくるこ
とが、上に立つものの役割です。

長谷部 ● 今はこういった気配りをされて
いるのでしょうか。

中澤 ● どれだけ忙しくても、なるべく毎

日顔を合わせるようにしています。今、直
属の部下が数十人いますが、彼らとは週
に1回は必ずミーティングの時間を取る
ようにしています。やはりコミュニケーション
をしっかりと取ることが大事です
ね。誤解はコミュニケーション不足から
生まれるものです。

長谷部 ● ウォルト・ディズニーはいろん
な名言を残していますが、中澤さんが大



ディズニーのキャラクターグッズに長谷部さんは興味津々。



事になっているディズニーの考え方はあります。

中澤 ●ウォルト・ディズニー生誕110周年のマーケティング・メッセージにもなっている「It all begins with dreams」。すべては夢見ることから始まるという意味で、やはりどんなことでも夢を持つことが大切です。

長谷部 ●今どのような夢をお持ちですか。
中澤 ●売り上げを伸ばすこと(笑)。従業員が幸せになるためにもやはりそれは一番大切です。

長谷部 ●御社に入りたいという学生も多いと思いますが、どんなことが必要でしょうか。

中澤 ●当社は新卒を一切採用していません。

ん。なぜかというところ、それぞれの領域のエキスパートを求めているからです。したがって、企業が求める即戦力志向に 대응しようとするなら、学生の時にいかに自分の能力を磨き、強みを錬成できるかが鍵を握っていると思います。自分の引き出しは多い方がいい。例えば英語ができて、プラス専門的に何ができるか。経理でも、法律でもいいと思います。

長谷部 ●最後に中澤さんからのメッセージとして、学生時代にやっておくべきことを教えてください。

中澤 ●英会話は最低限必須です。そしていろいろな意味で世間、世界を見ること。それは決してマイナ



「くまのプーさん」の関連グッズ。大人向けのグッズも多彩。

スにはなりません。しかし見るといつても、ただ漠然と見ているだけでは駄目ですよ(笑)。どうしてそうなるのかを常に考えてください。何よりすべてに関して好奇心を持つことが大事です。

長谷部 ●私も広くアンテナを張って、残りの学生生活を有意義に過ごしたいと思っています。今日は貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

INTERVIEW

長谷部衣純さん

商学部4年次生

千葉県出身で、現在の実家は東京都。幼い頃からディズニーキャラクターが大好きで、高校時代にディズニーランドで働くキャストの人材育成に関する本を読んで興味をもったため、商学部で学ぶことを決心した。憧れのあった京都で学びたいという気持ちから同志社大学を選び、ゼミでは幹事の役割を担っている。卒業後は大阪の機械工具商社への入社が内定している。

ネバーギブアップの精神で、挫折を恐れずチャレンジしたい。

中学時代に経済新聞を隅から隅まで読むなど、若い頃からビジネスの視点を持っておられたことに驚きました。お話を聞く中で、中澤さんの持って生まれたビジネスセンスを感じましたが、同時に大事なのは常に勉強をしてそのセンスを磨くことだと教えられました。仕事で成功するにはネバーギブアップ、あきらめないことが大切ということも、これからの教訓にしたいと思います。若い時の苦勞、挫折は大事とおっしゃっていたので、今のうちに失敗を恐れず、様々なことにチャレンジしようという気持ちが湧いてきました。今はまだ、私の人生において本当にやりたいことが何なのか探している途中なので、まずは来年入社する会社でいろんな経験を積みながら、自分の夢を見つけていきたいと思っています。

モノづくりにとだわって選んだ仕事。 自分で出した答えが 自信になる。

就職活動を始めた頃から、企画・開発から販売までを自分の手でしたいという思いがあり、今とは全く違う業種を志望していました。ところが、選考が進むにつれて理想とのギャップを感じ始め、4年次の4月に思いついて方向転換。サークルの先輩の勧めもあった素材メーカーの営業ならば自分の思い描いていたスタイルに近いと考え、東レに入社しました。

入社後1年間は工場実習で、一定の期間ですが生産現場のシフトに入り、三勤四交代で働くことも経験しました。当社の営業は出来合いの商品を売ることが仕事ではありませんので、モノづくりの現場とつながっていることがとても重要です。この経験で得た製品知識と人脈は、今でも大きく役立っています。

最初の配属はスポーツ・衣料資材事業部で、スポーツウェアを中心とした衣料品の生地を開発して販売するセクションに8年間いました。その後、現在のGO（グローバル・オペレーション）推進室に異動。ここは、ユニクロ社向けに世界の東レグループの素材・技術を提供する総合窓口で、新商品の開発、企画提案フォロー業務を包括的に担当しています。

す。ユニクロ社からの要望を受けて製品開発をすることもあれば、こちらから商品の提案をすることもあります。また使用する糸や加工方法、販売戦略など全工程で最適な方法を考えて、グループ内の関係部署、関係会社と折衝・交渉します。

時には、常識とされているものから飛びぬけた発想も必要です。具体的な製品で言えば、ご存じのウルトラライトダウン。ちょうど私がGO推進室に異動した2009年から展開しているこの商品は、生地の開発から携わりました。軽くてコンパクトなダウンジャケットをつくるには、羽毛を包み込むダウンパックは外せないと考えられていました。品質を重視するユニクロ社では、羽毛が生地の間から飛び出ることはタブーです。しかし、私たちはそこにこそチャンスがあると考え、密度の細かいナイロン素材にさらに特殊加工を加え、ダウンパックを使用しなくても羽毛が抜けにくい生地を開発し、真夏に試着を繰り返して商品化しました。売り出した初年度以降、倍々のペースで販売点数が増加し、今ではヒートテックに続く東レとユニクロ社の戦略商品に育っています。

就職活動中は悩んだり不安になったりす

ることが多いでしょう。でも、自分が何に興味があるのか真剣に考えるのはその時期しかありません。私

が実際にそうだったように、少し遠回りをしても、最後にこれだと思うものが見つければ、それは物事を進める自信となり、その自信は自分が発する言葉に説得力をもたらします。悩み考え続ければ、答えは必ず出る。この姿勢は、今の私の仕事スタイルに通じているかもしれません。

TORAY
Innovation by Chemistry

大川 倫央さん【2000年 経済学部卒業】 東レ株式会社 GO推進室

小学生から高校までラグビーのクラブチームでプレーし、大学に入からはサークルに所属。「ラグビーではグラウンドで選手自身が発揮する発想力が大切。こんなことはできないかと常に考え続ける。そういう点は今の仕事にも重なります」と話す。ラグビーだけでなくさらに自分に自信をつけたいと、3年次終了後の1年間、休学して中国に留学した。「当時の中国は“世界の工場”と呼ばれていましたが、今は巨大な消費地として可能性の大きい国。一度は中国に駐在し、中国人が求める価格や機能、販売方法を探りながら、より現場に近いところでの営業を経験したい」と語る。

仕事にやりがいと誇りを持ち、 「信頼できるパートナー」を目指して 勉強の日々。

大同生命は他の生命保険会社と違い、日本の企業の9割以上を占める中小企業マーケットに保険を販売しています。また、中小企業と密接な関係にある税理士事務所等を代理店として、中小企業が直面するリスク対策に取り組み、最高の安心と最大の満足をご提供しています。

エリア総合職の私の仕事は、企業経営者を万が一のリスクから守るための保険を、代理店である税理士の先生方がより提案しやすいようにサポートすることです。現在約20件の税理士事務所を担当していて、生命保険提案のアドバイスや情報提供、事務手続きをする上での支援などを行っています。一緒に仕事をする税理士の先生方や中小企業経営者の方々から「信頼できるパートナー」と認めていただけるよう、税務・財務や各種金融商品の勉強にも取り組む日々です。

当社では社員の研修プログラムや代理店に対するサポートシステムが構築されており、上司や先輩方の万全なフォローがあります。ですので、すぐに仕事に慣れることができます。私は現在入社7年目ですが、2年目で初めて保険金のお支払いに接しました。その際、ご

遺族の方から「この保険金があれば、社長が一生懸命築き上げてきた会社を潰さなければならなかった。おかげで潰さずにすみませう」とおっしゃっていただきました。会社の存続や従業員の方の生活を左右する重要な仕事なのだと、身の引き締まる思いがしたのを今でも鮮明に覚えています。若いうちから多くの代理店を任せられ、大きな仕事ができることは、やりがいにもつながっています。

昨年4月から今年3月までの1年間は、チャレンジ・キャリア制度を使って東京本社人事課で勤務しました。この制度は、異なる業務を経験することで能力やスキルを磨き、今後のキャリア形成に役立てるため、規定の条件をクリアした社員が、希望する業務に一定期間勤務できるというものです。私は今の仕事が好きで誇りを持っていますので、そういう思いと大同生命の良さを一人でも多くの学生の皆さんに直接伝えたいと考え、採用業務を担当する人事課を選びました。その経験により、自分に足りない部分に気づけましたし、全社的に物事を見る大切さも身を持って感じたので、今後も視野を広げて様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。

私は3年次の8月から12月末までカナダに語学留学をしました。そのため、周りの友人に比べて就職活動のスタートが遅かったのですが、あえて特定の業界に絞らずに「こういうところで働きたい」と心から思える会社を探して、多くの会社説明会に参加しました。その中で大同生命に出会い、社風や実際に働く人に惹かれて、入社を希望するようになりました。進みたい道がはっきりすると、やらなければならないことが明確になり、努力すれば必ずと道は開けます。先輩の皆さんにはビジョンをしっかりと持ち、自分だけの道をしっかりと歩んでほしいです。



今田 亜衣さん【2006年 神学部卒業】

大同生命保険株式会社 近畿税理士共済南支社 第二推進課

キリスト教系の小学校で聖書にふれ、「もう一度しっかりひもといてみたい」と神学部へ。高校時代にチアリーディングとバトンという厳しい練習環境に身を置いていたことから、大学入学後は体育会のゴルフ部に入部した。部活動に1年半熱中した後、一転、入学以来目標にしていた交換留学のために部活をやめて勉強に専念。半年間の留学プログラムでカナダ・ウィニペグへ渡る。部活動では「目標を持って粘り強く取り組むこと」、留学では「自分の思いをきちんと伝えることの大切さ」を学び、それらは社会人になった今も活かしているという。「当社は3年間の育児休業制度やジョブリターン制度、ファミリー転勤制度など、ずっと働く人を応援してくれる会社。これからもここで頑張りたい」と意欲を見せる。



※11月以降も毎週木曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

●10月9日(火) 映画上映《小津安二郎関連特集》 *詳細未定

●10月16日(火) ライブ パール・フィリップス&齋藤徹 19:00~/500円均一

●10月23日(火) 映画上映《ジャン＝クロード・ルソー監督特集》&トーク *詳細未定

●10月30日(火) 映画上映《松本俊夫特集》 *詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。

※11月以降も毎週火曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。



FLAT bふらっとプログラム

【会場】京田辺校地ハローホール 【料金】無料

●10月11日(木) 映画上映 内容未定

●11月15日(木) フランスジブシーシング「カフェマヌーシェ」

●12月5日(水) スマイルマジシャン「みっきゅん」

※内容・時間は決まり次第HP等でお知らせさせていただきますのでご確認ください。

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7413

♪観に行こう聴きに行こう♪

—学生団体10月～11月の活動予定—

【寒梅館ハーディーホール】

●10月14日(日) ピアノ研究会「OB・OG合同コンサート」

15:00(14:30) 無料

●11月3日(土・祝) ギタークラブ「第52回同志社ギタークラブ

定期演奏会」 17:00(16:30～) 無料

●11月23日(金・祝) 邦楽部「邦楽部第81回定期演奏会」 時間未定 無料

【学外】

●10月6日(土)・7日(日) 模型研究会「ホビースクエア京都合同展示会」

11:00～20:00 無料

ポークスホビースクエア京都

(京都市下京区七条御所ノ内中町60 最寄り駅:西大路駅)

●10月16日(火)～21日(日) クラマ画会「後期展」

ギャラリエヤマシタ 11:00～18:00(最終日17:00マデ) 無料

●11月2日(金) 交響楽団「第84回定期演奏会」

19:00(18:00) S席 1500円 A席 1000円

大阪ザ・シンフォニーホール(JR大阪環状線 福島駅から北へ徒歩約7分)

♪当団HPにてチケットプレゼントを行っております。

●11月18日(日) 志清会「秋季茶会」

建仁寺両足院 9:30～ 無料

●11月30日(金) マンドリンクラブ「第161回定期演奏会」

京都市呉文化センター(丹波橋駅) 19:00(18:00)予定 500円

【京田辺校地ハローホール】(ホール広場前含む)

●10月6日(土) マジックジャグリングサークルHocus-Pocus

「10月ステージ」 12:30(12:00) 無料

●10月9日(火) F.B.I.「自主制作映画の上映会」 12:30(12:15) 無料

●10月12日(金) とんがりぼうし「3回コンデモ演」 12:15～13:15 無料

●10月13日(土) とんがりぼうし「3回コン」 10:00～16:00 無料

●10月16日(火)・17日(水) 同志社プロレス同盟「プロレス興行」

12:20～14:30 無料

●10月19日(金) とんがりぼうし「定例コンデモ演」 12:15～13:15 無料

●10月22日(月) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30～(13:00) 無料

●11月13日(火) 喜劇研究会「お笑いライブ」 13:30～(13:00) 無料

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

同志社大学今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しております。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受付中です。

【対象】一般・他大学学生(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます)

【会費】無料 【特典】寒梅館イベント情報の郵送(希望者のみ)、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント(抽選)・入場料割引、学生団体による公演・お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引 etc.

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時、開催場所、対戦校、料金等は変更されることがあります。

【バレーボール部】

2012年度関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦

●第八節 10月7日(日) 10:00～

対戦校:未定 会場:未定

●第九節 10月21日(日) 10:00～

対戦校:未定 会場:未定

●第十節 10月28日(日) 10:00～

対戦校:未定 会場:未定

●入れ替え戦 11月4日(日) 10:00～

【ラグビー部】

●10月7日(日) 12:00～ 関西大学ラグビーAリーグ

対戦校:近畿大学 会場:近鉄花園ラグビー場

●10月14日(日) 12:00～ 関西大学ラグビーAリーグ

対戦校:関西学院大学 会場:近鉄花園ラグビー場

●10月21日(日) 14:00～ 関西大学ラグビーAリーグ

対戦校:摂南大学 会場:宝ヶ池球技場

●10月28日(日) 14:00～ 関西大学ラグビーAリーグ

対戦校:京都産業大学 会場:宝ヶ池球技場

●11月4日(日) 12:00～ 関西大学ラグビーAリーグ

対戦校:大阪体育大学 会場:宝ヶ池球技場

●11月10日(土) 14:00～ 関西大学ラグビーAリーグ

対戦校:立命館大学 会場:西京極陸上競技場兼球技場

●12月1日(土) 14:00～ 関西大学ラグビーAリーグ

対戦校:天理大学 会場:近鉄花園ラグビー場

【準硬式野球部】

●10月4日(木) 9:00～ 関西六大学野球 秋季リーグ戦 第4節

対戦校:関西大学 会場:わかさスタジアム京都

●10月5日(金) 14:00～ 関西六大学野球 秋季リーグ戦 第4節

対戦校:関西大学 会場:わかさスタジアム京都

●10月11日(木) 9:00～ 関西六大学野球 秋季リーグ戦 第5節

対戦校:立命館大学 会場:わかさスタジアム京都

●10月12日(金) 14:00～ 関西六大学野球 秋季リーグ戦 第5節

対戦校:立命館大学 会場:わかさスタジアム京都

※予備日 各週末 会場:同志社大学 軟式野球場

【アメリカンフットボール部】

●10月13日(土) 13:20～ 関西学生アメリカンフットボールリーグ

対戦校:関西大学 会場:EXPO FLASH FIELD

●10月27日(土) 12:00～ 関西学生アメリカンフットボールリーグ

対戦校:龍谷大学 会場:西京極陸上競技場兼球技場

●11月11日(日) 11:20～ 関西学生アメリカンフットボールリーグ

対戦校:神戸大学 会場:神戸ユニバー記念競技場

●11月24日(土) 13:30～ 関西学生アメリカンフットボールリーグ

対戦校:近畿大学 会場:EXPO FLASH FIELD



同志社創立137周年記念Reunionー 同志社大学ホームカミングデー2012

今年もホームカミングデー(HCD)を開催します。テーマは「All DOSHISHA 在学×卒業生 世代を超えてつながる新しいHCD」。学生実行委員が卒業生委員とともに様々な企画を練ってお待ちしています。ぜひご来場ください。

【日時】11月11日(日) 10:00～16:30

【会場】今出川キャンパス

●OB・OG訪問 IN CAMPUS

キャリア教育の一環として、就職をテーマにした企画を行います。Uターン就職コーナーでは、同志社校友会の各都道府県支部の方が学生の皆さんに助言をさせていただきます。また業界別ブースも設けて、その業界で働いている卒業生から直接お話を聞く機会もご用意しています。学生の皆さん、実際の仕事の様子を聞くことができるチャンスですので、ぜひお越しください。

卒業生による講演も開催されます。

15:00～16:00 【講演内容】社会人としての心得など

・セコム株式会社 取締役会長 木村 昌平氏(1967年文学部卒業)

・株式会社エクス 代表取締役 抱 厚志氏(1985年文学部卒業)

●同志社版 紫熱(はくねつ)教室

昨年、大人気だった紫熱教室。今年は下記2名の教員による講義です。

本井 康博 教授(神学部) 演題:大河ドラマ「八重の桜」の楽しみ方

村田 晃嗣 教授(法学部) 演題:米大統領選挙後の国際情勢

●その他のプログラム

学長講演、大集合写真、音楽祭、交流レセプション、野点、新島旧邸バスツアー、人力車友会による周辺散策、クラーク・チャペル 学生によるパイプオルガンの演奏、スポーツで繋がる同志社、Ben-kひみつの宝物を探せ!、学生ゼミやサークルによる展示・物販、生協食堂特別メニュー、物産展など

HOME COMING DAY EVE (前夜祭)

【日時】11月10日(土) 18:00～19:30

在学生と卒業生が世代を超えてつながる場として開催します。

【会場】新島会館(京都市上京区寺町通丸太町上ル)

【主催】学校法人同志社、同志社大学、同志社校友会、同志社同窓会
事前予約必要、会費制:社会人は3,000円(当日払い)在学生は無料。
詳細は決まり次第、ホームページでご案内します。

【詳細】大学ホームページ <http://www.doshisha-koyu.net/index.html>
ホームカミングデー実行委員会Twitter・Facebook
<http://twitter.com/dhcd1111>
<http://www.facebook.com/doshisha.hcd>

【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009

「同志社大学キャンパス フェスタ」& 「同志社フェア in 風間浦」

10、11月の「同志社大学キャンパスフェスタ」を以下のとおり開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

開催日	開催地	会場	講師／演題
10月8日(月・祝)	愛知 (名古屋)	名鉄グランドホテル	本井 康博 氏 神学部教授 「八重の桜」裏の梅
10月14日(日)	青森	青森グランドホテル	本井 康博 氏 神学部教授 「八重の桜」裏の梅ー青森と同志社ー
※「同志社フェア in 風間浦」(青森県下北郡)も同時開催! 10月13日(土) 風間浦中学校「新島襄寄港の地碑」碑前祭などの多彩なプログラムを実施。			
10月20日(土)	香川 (高松)	アルファあなぶきホール	露口 卓也 氏 文学部教授、同志社史資料センター所長 「新島八重の印象」

開催日	開催地	会場	講師／演題
11月18日(日)	東京 (秋葉原)	秋葉原UDX (GALLERY, CONFERENCE)	・露口 卓也 氏 文学部教授、同志社史資料センター所長 「新島八重の印象」 ・米井 嘉一 氏 生命医科学部教授、 アンチエイジングリサーチセンター長 「健康長寿をめざすアンチエイジング 研究最前線」 ☆東京新島講座と共催
11月23日(金・祝)	鳥取 (米子)	米子コンベンションセンター BIG SHIP	露口 卓也 氏 文学部教授、同志社史資料センター所長 「新島八重の印象」

■主なプログラム(基本パターンは下記のとおりです)

●受付開始 12:30～

●開会 13:30 開会挨拶、大学の近況報告(八田 英二 学長)

●講演会 14:00～

●個別学部による説明・相談&入試・学生生活相談コーナー、資料展示コーナー

●入試概要説明、本学教員による英語対策講座

●同志社大学のキャリア支援について、地元企業などからの説明

●交流交歓会 16:30～18:00 【会費制】3,000円

【詳細・申込】http://www.doshisha.ac.jp/alumni/info/c_festa.html

【お問い合わせ先】企画部広報室 校友・父母課 TEL:075-251-3009

同志社クローバー祭(同志社京田辺祭)

11月3日・4日の2日間、同志社クローバー祭(同志社京田辺祭)を開催します。昨年までの大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成という観点はそのままに、そこに学生の皆さんに多く参加していただくことで例年以上の活気あふれるお祭を目指しています。期間中は、アーティストライブ(無料)・模擬店・きっずぱれっと・アカデミック体験コーナーなどがお祭を盛り上げます。また、東日本大震災の復興支援として、福島県の物産展なども出店しますので、是非、京田辺キャンパスにお越しいただき、お祭のにぎわいを感じてください。

【日時】11月3日(土・祝)・4日(日) 【場所】京田辺キャンパス

【お問い合わせ先】クローバー祭実行スタッフ TEL:0774-65-7832

同志社EVE

同志社創立137周年を記念して、今年も今出川校地を中心に同志社EVEが開催されます。日頃の学生生活・クラブ活動等で培ってきた技術をアピールする場として、学生・教職員・卒業生・地域住民の一体感を生み出す場として…講演会や演劇、演奏会等が華々しく開催されます。

【日程】EVE期間 11月1日(木)～28日(水)

出店期間 11月26日(月)～28日(水)

【場所】今出川校地

【お問い合わせ先】第137回全学EVE実行委員会 TEL:075-251-4452



WOT(ワット) = "What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

●10月4日(木) 映画上映『奇跡』 *詳細未定

●10月11日(木) 映画上映『アーティスト』 *詳細未定

●10月18日(木) 映画上映『パール・フィリップスの映画音楽』 *詳細未定

●10月25日(木) 映画上映『小津安二郎の世界』

10:30～『麦秋』

13:30～『東京物語』

16:30～『彼岸花』

19:00～『秋刀魚の味』

*500円均一/各回入替制

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。

ニューヨークで認められた 独自のダンススタイル プロのダンサーとして元気を与えられる存在に

10年前から、妹（優華さん）文学部英文学科1年

次生）と一緒に「華～puspa～」という

タップデュオとして活動しています。タップダン

スとの出会いは、6歳の時。4歳から通っていた

ジャズダンススタジオの強化メンバーに入り、そ

のプログラムの中でタップを始めました。「わた

し、タップダンサーになる！」。小学3年の時、母親

に言ったことを鮮明に覚えていますが、気がつけ

ば、それが現実になっています。タップにはファン

クタップやジャズタップなどいろいろな流れがあ

り、私はリズムタップにヒップホップやジャズダ

ンスといった他のダンスの要素も盛り込んだ、自

分だけのスタイルのダンスを目指しています。振

り付けや構成、編曲はセルフプロデュースです。

デュオを結成した頃は、日本にはタップのコン

テストがありません。ストリートダンスのコンテ

ストに挑戦していました。しかし、まったく評価さ

れませんでした。悔しくて、その結果を受け入れら

れないでいる時、ダンススタジオの先生が「ニュー

ヨークへ行っておいでよ」と言ってくれたのだ

です。「今まで積み上げてきた自分のダンススタイ

ルが本場で認められないのなら、続ける意味はな

い。正面からぶつかって返ってくる評価を受け止

めよう」と2007年、ニューヨークで開催された

「Tap City Festival」の出演オーディションに挑戦

しました。会場では立ち上がって拍手してくれる

方もいて、予想以上の反応に驚きました。翌日、現

地の新聞にも紹介され「華～puspa～だよね」と

声をかけてもらいました。自分たちのダンスを認

めてもらえたと実感できた瞬間でした。プロード

ウェイの舞

台に立てたこ

とは、今でも

私の大きな支

えです。

同志社大学

に進んだぎっか

けは、実はこの時

の苦い経験です。

オーディションの

書類を書く時、辞

書を引ながら訳

すことはできても、

ニュアンスがまったくわからない。リハーサ

ルでは自分たちの希望が英語でうまく伝えら

れず、何度もトラブルになりました。そんな時

に「実践的な英語力を身につけ、文学や文化など

専門分野の知識を深める」という英文学科の紹介

文を読み「自分が勉強したいのはこれだ」と思った

のです。大学では、人との出会いに恵まれています。

いい刺激をもらえる友だちに出会えて、そこからま

たつながりが生まれています。自分に足りない部分

にも気づけるし、同世代の人たちが頑張っている姿

は、自分のモチベーションにもつながっています。

卒業後は、ダンサーとしてどこまで活動を広げ

られるか試したいと思っています。プロダンサーと

して仕事を依頼され、観に来てくださる人が増え

ることが、まずは目標です。そして、さらに多くの

経験を積み、海外の人たちからもダンスが観たい

と言っていただけのようになりたいです。私たちの



中西 浄華さん
【文学部英文学科4年次生】



華～puspa～10周年記念公演開催！
【日程】2013年3月3日(日)
【場所】室町キャンパス 寒梅館ハーディーホール
【詳細】華～puspa～公式HP <http://puspa-tap.com/>